

# 知事記者会見の概要

日 時：平成31年3月19日(火) 10:00～10:33

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 県庁ロビーの内装木質化について

### 代表質問

- (1) 県議会議員選挙についての所感等について

### フリー質問

- (1) 平成31年度公立高等学校入学者選抜について
- (2) 津波災害警戒区域の指定について
- (3) 外国人材受入拡大について
- (4) 参院選山形選挙区への対応について
- (5) 代表質問に関連して

<幹事社：朝日・荘内・NHK>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。ようやく春めいてまいりました。

初めに、恒例となりました、祭りやイベントのご紹介をいたします。

まず、3月20日から24日まで、村山市の飯葉プラザで「段々ロングなひなまつり」と「ひな市」が開催されます。ホールを囲むように設置した長さ50メートルの雛壇に、昭和から平成の雛人形、およそ6,000体が展示されます。迫力満点であります。また、「ひな市」にはさまざまな露店が並び、地元商店のグルメが楽しめます。

それから、3月23日と24日の土日ですが、川西町の玉庭地区で「玉庭ひなめぐり」が開催されます。玉庭地区には、かつて米沢藩の士族が多く居住しておりました。その武士達が江戸や京都での勤務の際に持ち帰った享保雛・古今雛などが今も残っています。「玉庭ひなめぐり」では、そんな貴重な雛人形を地区内の会場に華やかに飾り、郷土料理や地元ボランティアのおもてなしとともにご覧いただくことができます。

いよいよ春の足音が近づいてまいりました。これから県内各地で、桜をはじめ、さまざまな花にちなんだ祭りやイベントが開催されますので、ご家族・ご友人の皆さんと、ぜひお出かけいただければと思います。

では、私から発表が1点だけございます。

平成25年に「やまがた森林ノミクス宣言」を行いましてから5年が経過し、これまで林業振興と地域活性化を図ってきたところです。

本日は、公共・民間施設の内装木質化のモデルとして取り組んでいる県庁ロビーの木質化計画について、お知らせをいたします。

これがイメージ図であります。お手元に資料を配布しておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

今回の内装木質化は、1階の玄関ホール全面と2階の吹抜けの壁面で、スギの縦格子を基調としております。

入って正面の北面の壁には、山形県をかたどった横顔の形ですね、山形県をかたどったスギ板に各「市町村の木」を貼ったプレートを設置し、県と市町村の協働を表現しました。その上部の吹抜け壁には、山形県の花、魚、木、獣、鳥をモチーフにしたマークを取り付けております。受付がある東の面につきましては、受付カウンターや階段の手すりを木質化します。そして、入口のある南面の柱につきましては、有機EL照明を配置しております。それから西面の吹抜け壁には、組子細工で装飾した森林ノミクスマークを配置することとしております。

このように、本県の様々な特徴を盛り込んだところです。なお、「市町村の木のパネル」の詳細や「組子細工」の詳細につきましては、お配りした資料に記載しておりますのでご覧になっていただきたいと思います。

工事期間中は、来庁された皆様にご迷惑をおかけしますが、今年の8月中、8月頃には、県民の皆様にお見せできる予定でございます。多くの皆様に来庁していただき、木の温もりを感じていただきたいと思います。

私からは、以上です。

#### ☆代表質問

記者

幹事社、朝日新聞の星乃です。代表質問させていただきます。

県議会議員選挙についてお尋ねします。県議会議員選挙に際し、論争を深めてほしい県政課題等のポイントがあれば、ご所見をいただきたいと思います。また、支援や応援等を含めたご自身の対応についてもお伺いできればと思っております。よろしく申し上げます。

知事

県議会議員選挙につきましては、3月29日に告示、4月7日が投票日ということで、目前に迫っております。私としましては、県政運営の3期目にあたりまして、「自然と文明が調和した新理想郷山形」を実現するという将来ビジョンを県民の皆様にお示しして、「県民総活躍」、「産業イノベーション」、「若者の希望実現」、「健康安心社会」、「県土強靱化」この5つを県政運営の基盤として各種施策を推進し、「やまがた創生」を拡大・加速する取組みを推し進めているところであります。今回の選挙は、その基となる条例・予算などを審議していただく県議会の議員を決める大変重要な選挙であると考えております。さまざまな課題に関するそれぞれの候補者の方々の考え方に、有権者の皆さんがしっかりと注目していただきまして、有権者の高い関心を集める中で実施されることを希望しております。

候補者への支援等についてということですが、先週、県議会2月定例会が閉会しまして、来年度予算についてご可決をいただいたところです。そして、昨日、平成31年度の人事異動の内示を行いました。これから、新しい体制で新年度の予算なり事業というものをしっかりと執行していく、そういう準備を進めていかなければという決意を新たにしているところでありますので、支援などにつきましては、現時点で、特に申し上げるところはないところであります。

記者

ありがとうございました。

#### ☆フリー質問

記者

おはようございます。NHKの堀です。2点ございます。

1点目。県立高校の入試についてなのですが、一昨日、合格発表が行われて一段落

したところでありますけれども、ご案内の通り、昨年は採点ミスの問題があって、非常に保護者の方をはじめ大きく揺るがしたわけですけれども、今年入試を終えられて、現時点での状況と、あと去年はその後の情報開示請求から発覚して事案の発表にいたったわけですから、今後の対応等についても、お聞かせいただければと思います。

知事

はい。昨年は採点ミスということで、大変なことでありました。人の人生がかかるということで、非常に重要な入試でございますので、教育委員会としてしっかりとやっていたというのを聞いているところではありますが、聞いてみたいと思います。

教育次長

教育委員会の次長、大沼です。

ただ今のご質問ですけれども、教育委員会では、平成 31 年度の入学選抜を実施するにあたりまして、再発防止・改善策及び採点マニュアルを策定いたしまして、採点ミスの撲滅に向けて二重三重の点検作業を行いまして、適正に業務を行ったところ です。

昨年までですと、採点業務に 2 日間程度かけておりましたが、今年は 3 日、学校によっては 4 日間の時間をかけて丁寧に何重ものチェックを行っております。情報開示請求につきましては、採点関係についての開示請求は今のところありません。

知事

よろしいでしょうか。

記者

ということは、今のところ、この採点の関係で大きな混乱や問題はないと、そういう認識でよろしいでしょうか。

教育次長

今のところございません。

記者

わかりました。それともう 1 点ですけれども、近く津波災害警戒区域というのを今年度中に指定されると思うのですが、この指定に対する県としての狙いというか、期待しているというのがあれば、お願いいたします。

知事

津波による災害から県民の命や財産を守るということは、非常に重要な課題だというふ

うに認識をしております。そのため県では、平成26年から最大規模の津波浸水を想定した調査を実施するなど、津波災害地域づくり法に基づく施策を進めております。津波災害警戒区域につきましては、これまで沿岸の3つの市・町など関係監督区域指定に向けた調整を進めてきたところであります。

本日、遊佐町の区域指定について、県公報により告示をするということで、その後、記者発表もさせていただく予定だというふうに聞いているところです。

やはり、津波災害警戒区域をしっかりと指定をして、それを基に防災教育と言いますか、減災に向けたしっかりした訓練というか、そういったことをやっていただく。そしていざという時に備えていただくということで県民の皆さんの安全・安心をしっかりと、官民一体となって守っていくことが重要だというふうに思っております。

記者

さくらんぼテレビの白田です。1点、来月から始まります、外国人材の受入拡大について伺いたいのですけれども、先週県内でも説明会が開かれて、かなり多くの方が企業から参加されていたのですけれども、この受入拡大について、知事はどういう所感を持たれているのか、期待されているのか、不安なのか、その点を教えてください。

知事

そうですね。人口減少は日本全体でありますけれども、本県も例外ではなく、労働力不足ということに突入しているというふうに認識をしております。さまざまなことが考えられるのですけれども、若者の定着とかにももちろん取り組んで、また、移住政策をがんばるとかですね、そういったことも取り組みますけれども、外国人の方にも大いに活躍してもらおうというのも私は、やはり一つの大きな方向であるなと思っております。政府も大きく舵を切られるということで、これはやはり、現場もそうなので、それに対してしっかりと対応していくことが重要だというふうに思っております。

県内いくつか企業を回ってみましたけれども、やはり、外国の方がいらしております。そこには言葉の壁でありましたり、あと、日常生活がしやすいような環境づくりというように必要なのではないかなと思っております。

非常に具体的な例になってしまいますけれども、ゴミの問題とかですね、そういったことが問題になっているというのもちょっと耳にしたりもしますので、やはり、企業の中でいろんな対応ですとか、あと、民間で生活していく場合のさまざまな課題解決、そういったことに行政としてどういったことができるのか、市町村と一緒にしっかりと考えていきたいというふうに思っています。

あとは、やはり、これからどうなるかわかりませんが、若い方、家族で来られる場合の子どもさんの教育ですね、そういった場面できちんと対応していけるようなことをね、考えなければいけないのではないかなどと思ったりもします。いずれにしても地元

住んでいる人と外国の方との人間関係と言いますかね、本当に良い関係ができるようにしていければいいなというふうに思っています。

記者

そもそも受入れの拡大は、人手不足の解消が目的だと思うのですが、県内でも人手不足が深刻ということで、一言で言うと、人手不足解消については、外国人材の受入れ拡大は期待しているのか、その辺のお言葉を聞かせてください。

知事

そうですね。やはり、企業の皆さんの期待感と言いますか、そういったことをもっとしっかりと私どもが把握しながらですね、それに適切にしっかりと対応していくということが大事だと思っています。

商工労働部でアンケート調査もしてくれましたけれども、大きな流れの一つになっているのではないかなというふうに思っています。

記者

毎日新聞の松尾と申します。

選挙のことでですね、先ほどの代表質問とも重なる部分なのですが、今年の夏に参議院選挙があるわけなのですが、今月に入って舟山康江参議院議員ら野党陣営のほう元山形放送のアナウンサーの芳賀道也さんが出馬されるということで、ほぼ選挙の主要な候補者が出そろったと言いますか、構図が固まったというようなことも言われていると思うのですが、少し選挙自体は先なのですが、この参議院選挙に関する知事のご所感と伺いますか、支援のあり方というともっと時間があるかなと思うのですが、ご所感みたいところを伺えたらなというふうに思います。

知事

そうですね、まずは4月の選挙がございますので、私どもにとりましては執行部と両輪といわれる県議会の議員の選挙があります。そこがしっかりと行われるということが望ましいと思っておりますが、それに対する支援などは現時点で何も申し上げることはないのですが、参議院選挙はその先の選挙でありますので、まったく考えが及んでいないところです。

どういうふうになるのかなとは思いますが、大変申し訳ないのですが、ちょっと今のところ考えが及んでいないというところでもあります。

記者

河北新報の吉川です。

県議選に関して何点かお伺いしたいのですが、先ほども特定の立候補予定者の応援に関しては、現時点で何も申し上げられないというお話でしたが、一方で、年が明けた後も、その時点ですでに立候補を正式に表明しているような予定者の方何名かの、選挙期間外ではありますけど、そういう県政報告会などに知事も出席されているかと思うのですが、その辺に関してはどういう観点で参加されているのでしょうか。

知事

そうですね、これまでも私を応援してくださった方々に対しては、今回の選挙ということではなくて、毎年、県政報告会の時には顔を出していたかと思っておりますので、その流れであります。

記者

そうすると、支援していただいた方に関しては、県議選では恩を返すみたいなものは出てこないのでしょうか。

知事

そうですね、これまでどおりと言いますか、支援してくださった方々には県政報告などの時には、私もちょっと顔出しをさせていただいたというようなことでありますけれども、今回の選挙ということに関しては、まだ一切申し上げることはないということです。

本当に皆さんにがんばっていただきたいなという思いです。

記者

わかりました。あと、関連してなのですが、今、現職の女性の県議会議員は2名だけで、立候補を予定されている方でも非常に限られるという中でですね、「これが正解」ということはなかなかないと思うのですが、知事ご自身、全国でも数少ない女性知事で、東北でも唯一の女性の知事ということで、なかなか女性県議が誕生するということが難しいという状況について、どういったところに原因があるとお考えでしょうか。

知事

原因ですか。原因となるとなかなか難しいのかなと思いますけれども、まず人口の半分が男性であり、半分が女性、大まかに言いましてね、そういう中でどうして女性はその政治の面に案外少ないのかなという、本当に疑問だなと思っています。

突き詰めて「これが原因だ」と言って、そこに対処すれば解決するかというと、今までずっと女性活躍ということでね、地道にやはり取り組んできてくださっている先人がいる

し、政府も女性活躍を掲げたりね、知事会としても申し上げたりいろいろしてきているのですけれども、やはり一気にというのはなかなか進んでいない現状で、先進国の中では遅れているように言われております。

ですから、その原因が何かというそんなに簡単ではないのかなというふうに思っていますけど、やはり社会全体の意識というとまたもうちょっと違うかもしれないですが、女性自身の意識というものもあるかと思えますし、それを応援していただける男性の意識というのものもあるかと思えます。意識というのは大変大きいと思っています。

その意識が、女性も政治をやって当たり前みたいなことにはまだなっていないのかなと、簡単に言えばですね、思いますが、それをどうやって打開するかということについては、やはり長い目で言えばやっぱり教育みたいなこともあるかもしれませんし、あるいは政府が思い切った政策を打つという方法もありなのかなとも思ったりもしますが、何が正解なのかというの、ちょっと私にもわからないのですけど、ただ、地道にやはり先人が、女性も活躍できるようにということでこれまで行動してきた、そういったことを積み重ねていく、現在の私たちもですね、将来の世代のために積み重ねていけることをきちんとやっていくかなという思いはありますけれども、なかなか本当に歯がゆいぐらいに進まないというのは正直な感想です。

だいぶ前の話になりますけど、私が県の教育委員をしていた時に、教育委員会制度ができて50年経ってもまだ県の女性の教育委員はたった1人だということで申し上げたら、そのあと2人になったんですね。

だからやっぱり、いろんな場面でみんなが声を上げていって、意思決定をする人の耳に届き、そしてできる限り男性もやるけれども女性も活躍できるそういう環境づくりをしていかなければいけないのではないかなと思っています。

連動して考えるに、やっぱりワーク・ライフ・バランスに行きつくのかなというふうにも思いますね。

どうしても子どもを産んで育てるとというのが女性の仕事というふうになってきますと、なかなかそのワーク・ライフ・バランス、仕事と家庭の両立はなかなか物理的にも大変なところはあります。

ですから一緒に子育てをして、そして介護も、今、介護も高齢化社会でいろんな方の肩にかかってきておりますので、介護も男性も女性も両方一緒にやるというそういう意識と行動が伴わなければいけないわけです。ちょっととりとめないことになりましたけど、やはり助け合う、支え合う、そういう社会になっていかなければならないのかなと思います。大きく見れば共生社会だと思いますけど、まだまだ足りないかなと思っています。その環境づくりのために政府も私どもも、もっともっと力を入れていかなければいけないというふうに思います。



記者

ありがとうございます。

知事

はい。

記者

産経新聞の柏崎と申します。

再三今質問に出ていました、県議会議員選挙についてお尋ねします。

知事のお立場は先ほどの、「特定の候補に支援されますか」みたいな質問に対しましてね、「申し上げることはございません」というようなお話をされたのですが、その言葉の意味というのは、応援とかそういうのには行かないという意味なのか、こちらの言葉なのかね、山形県の言葉なのか。その言葉の意味がちょっとわからないので、はっきり教えてほしいのですが。

知事

「支援などについて、何か予定があるのでしょうか」というご質問だったと思いますので、「それについては今申し上げることはございません」ということです。支援するかどうかも含めて。

記者

ということは、「知事、応援に来て下さい」と言われれば行くというお立場でよろしいわけですね。人を選ぶということですか。人というか、立候補者を選ぶと。

知事

行くとか行かないとかもちょっとまだ考えておりませんので、それも含めてちょっと今申し上げることは無いです、ということです。

記者

前回の、4年前の選挙では行かれたのですか。

知事

4年前の選挙ですか。

記者

はい。

知事

4年前の選挙はどうだったのですかね。そういったことはもう一度確認してみないと。

記者

覚えていらっしゃらないのですか？

知事

いや、覚えているような気がしますけど、きちんと確認をしながら対処していきたいと思います。

記者

4年前の時は、例えば自民党さんとか、なんとかクラブとかありますけど、こういったところを応援されたのですか。

知事

4年前のことは、確実なところはきちんと確認してからでないとお答えはちょっとできないですね。はい。

記者

でも、先ほどおっしゃったように、29日ですか、もう間近だとおっしゃいましたが。

知事

そうですね、目の前ですね。

記者

まだ予定はないんですかね。

知事

今のところは。はい。

記者

行くとすれば、土曜日、日曜日となるわけですね。平日は行けないわけですよね、知事、公務があるわけですから。

知事

公務ですからね。はい。公務は出張も含めて公務がございます。年度末、それから年度

初めということになりますので、かなりいろいろ入っております。ですから、そういう公務をきちんとやっぴりこなすのが私の第一義的な役割だろうと思っています。

記者

昨日も、東根市に行ってきたのですが、知事の応援団体のオレンジの会というのがありまして、伺いましたら県内 30 何地区にあるんだということで、そういう力強い応援団体があるということを伺いましてね、知事の応援団体がこれだけ力強いものですから、応援していただきたい県議の方もいらっしゃると思うのですが、まだそれは考えていらっしゃらないということですね。

知事

そうですね、はい。私を応援してくださっている方々でありますので、その方々に対してどうというようなことはまだ考えていません。

記者

いや、オレンジの会という会がありまして、それは結構力強い会であったと。

知事

はい。

記者

人数全部はわかりませんが、そういう組織があるわけですから、その組織も含めて知事に応援を頼む方もおられるかと思うのですね、立候補者の中で。それに対して応援をどうされるのかというお尋ねなのですが。

知事

だからそのことに関しては、私がどうするかというようなことについてはちょっと今まだ決めていないということでもあります。

記者

決めていないということですね。わかりました。ありがとうございました。

記者

毎日新聞の松尾です。

先ほど、河北新報さんの質問の中で、県議選のことですね、県政報告会については「私

を応援してくださった方には顔を出していた」というようなこと、知事は先ほどおっしゃっていたのですけれども、「私を応援してくださった方」というのは具体的に、応援というのは選挙の応援なのか、普段の県政運営での応援なのか、もうちょっと具体的に言うとどういう方を指しておっしゃっていたのかということをお聞きしたいのですけれども。

知事

どういう方というと。

記者

先ほど、県政報告会に「私を応援してくださった方には顔を出していた」というふうに先ほど知事おっしゃっていたのですけど、「私を応援してくださった方」というのは、もうちょっと言うと、例えば県政クラブなのかとかですね。

知事

そうですね、そういうことになると思いますが。はい。

記者

県議会でいうと、県政クラブだけということになるのですか。自民党の中でも一部県議の方にも顔を出していたりというのはあるのですか。

知事

そうですね、一部、もちろん幅広く応援してくださっているので、一部の自民党の方のところにも行っていると思います。

記者

では、特に県政クラブに限っているということではないですか。

知事

限ってではないです。